

宮城から、伝えたいこと。

つながれ、どこまでも

Baton

バトン

VOL.

06

FROM MIYAGI

特集

地域を支える 地域の産業

きて・みて
in 東松島市

- 東松島市震災復興伝承館
- 未来学舎KIBOTCHA
- 宮戸地区復興多目的施設 あおみな



テーマ:

災害と産業の力

machico防災部といっしょ: SOSカードをつくろう

あしたのクリエイティブ: 「こけしのしまめき」の明かりこけし

バトンとは

世代や地域を越えて広く「伝える」、リレーのバトンのように「つなげていく」という意味を込めています。県内外や幅広い世代の方々が復興・伝承に興味を持ち、被災地へ足を運んでいただくことを目的に発行しています。

あらゆる産業がダメージを受けた東日本大震災。屈強に立ち上がるとうとする産業の力は、地域の復興をしっかりと支え、力強い追い風となっています。海の町で、山あいの町で、地域の特性を生かした真の産業復興のための取組が進んでいます。

特集

地域を 支える 地域の 産業

ふだん誰もが「あたりまえ」と感じている日常は、これまで何度も大災害によって奪われてきました。被害が甚大かつ広範囲に及んだ東日本大震災では、インフラの復旧や一人ひとりの暮らしの立て直しに膨大な時間とエネルギーを要しています。

復旧・復興に当たり、発災直後の復旧期には外部からの物資やマンパワーの支援を必要とします。しかし、地域の再生や、さらによりよい状態に発展させ、持続させるための鍵を握るのは、「あたりまえ」の日常の中で見過ごされがちだった貴重な地域の資源と地域を再興させようとする人たちの熱い想い。そして地域に根差した産業を存続させ、未来につなげるための地道な取り組みです。

日本屈指の漁港がある気仙沼市のアサヤは創業173年の漁具卸問屋。社屋が津波にのまれながらも、いち早く業務を再開しました。背中を押したのは生業によって苦境から立ち上がる漁師の姿、そしてそれを敏感に感じ取った社員の意思。海と生きる気仙沼

で、漁に使う資材や機械の発注を受けるたびに励まされたといいます。東京からUターンした若き後継社長は生業にとどまらず、海の仕事の魅力を伝える活動にも尽力するなど、港町の新たな可能性にも視線を向けています。

一方、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響を受けているのは県南内陸部の丸森町。放射性物質の影響によっていまだに一部の農産物出荷制限がかかっています。結婚・出産を機に茨城県から移住した女性は直売所「あがりいん伊達屋」を拠点に奮闘。自身が丸森町の一番のファンであると語る彼女は、風評被害に悩み、高齢化・過疎化の課題を抱える地域に勇気と活力を与えています。

大規模なプロジェクトのような派手さはないものの、人と風土と共に歩む取り組みを紹介します。



アサヤ株式会社
代表取締役社長
廣野一誠さん

地域の基幹産業を支え、守ることを使命として

先代が決意した「発災翌日から」の営業

創業173年を迎えたアサヤ。港町・気仙沼で、漁具屋として地域の基幹産業である漁業を支えています。

東日本大震災では、気仙沼湾沿いに面した本社をはじめ、沿岸部に点在する支店や工場も津波にのまれ、大きな被害を受けました。一誠さんの父であり先代の社長・浩さんは、数名の社員とともに向かい側の気仙沼市魚市場の屋上へ避難。何度も押し寄せる津波と倒壊していく社屋を目前に見た時、浩さんの頭の中には一瞬、「廃業」という言葉がよぎったと言います。しかし、そのような状況の中で、社員から上がったのは「漁業

者たちは不屈の闘志で絶対に立ち上がる。それを手助けするのがアサヤの仕事だ」という力強い声でした。浩さんはその場で「明日から営業しよう」と決断したそうです。

一誠さんはこの時、東京で働いていました。母や祖母の無事はすぐ確認できましたが、父と連絡が取れたのは約10日後。直接会えたのは5月になってからでした。

「実家がどのような状況になっているのか、とても気になっていました。でも、あの時は帰ることの方が迷惑になるのではないかと思います。すぐに駆けつけませんでした。しばらくして、がれきが撤去され実家があった場所が更地になり、かつて歩いた通学路がなくなってしまうのを見たとき、自分はこのまちにとつて一番大事な時に何もせず逃

げていたのではないかと感じるようになりました」。

一誠さんは後悔に似た複雑な思いを胸に気仙沼へのUターンを本格的に考え始め、2014年12月に妻と子と共に気仙沼に移り住みました。

気仙沼に戻ると決めた時から、一誠さんには気がかりなことがありました。それは、アサヤの社員への初めの挨拶。気仙沼が最も大変だった時を見ていない後ろめたさと、会社が漁業の復活に奮闘している過渡期に関わっていない申し訳なさをどう言葉にするか。伝えたのは「感謝」でした。

「アサヤの歴史を支えていただき、地域の漁業を支えていただいたことにまず感謝したいと思いました。そして、創業から皆さんがつかないでくださったバトンを今度は自分が受け取ります」と。

地域で産業が継続することの大切さ

今、アサヤには3つの企業理念が掲げられています。「漁民の利益につながる、よい漁具を」「社員が主役になれる仕事」「三方よしの三百年企業」。創業当初から受け継がれているアサヤのDNAを、一誠さんはあらためて言葉で表現しました。そうすることで、次世代の社員にもアサヤの存在意義を伝えていきたいと考えています。

「東日本大震災のような災害時に、地域の産業を守ること

がとても大切だと思っただけです。私たちに出来ることは、漁業者さんがダメージから立ち上がるうとするときに、いち早く手助けをすること。アサヤの使命は漁業の存続をずっと支え続けることであるという意識は受け継がれていないし、地味だけどなくてはならない役目だと思っています。有事の際に地域の面倒を見る役って必要なんですよね。そういう機能を維持できるように、地元企業が前向きな展

望を描きながら、ちゃんと地域に人が残り続けるような経営努力をしていくことが大事だと感じています」。

一誠さんは今、観光客や子どもたちに向けたユニークな会社見学会や、気仙沼産品を扱うECサイトの運営、プログラミング教室の開校など、若い世代にアサヤを知ってもらう取組にも力を入れていきます。とはいえ、取り組んでいる過程では社員とのハレーションも生まれたそう。

「当初は、自社の広報や採用に役立てる、という視点で観光団体に関わり始めたのですが、次第にのめり込んでしま

い、本業よりも観光に費やす時間の方が多くなってしまっていたんですね。そしたら社員から「会社のことはどうでもいい、と思ってるように見えるよ」と釘を刺されました。もつと社員と時間を共有して、信頼されるように努めなくては、と反省しました」。

最近の嬉しいことは、会社に愛着を持つ若手が増えてきたこと。

「この仕事が楽しいと言って取り組んでくれる若手が増えてきています。私自身も先輩たちが大事にしてきたことをもつと吸収しながら、ベテランと若手との橋渡し役になれ

るようになって思っています」。

経営者として「まだまだロマンとそろばんの加減が難しい」と話しながら、心境の変化も語ってくれました。

「先代が震災時に経営を続ける決断をしたのは、本当にすごいことだと思います。自分にはそう言えるだろうかと思つと不安でした。でも今、若手がいきいきと頑張る姿を見て、この人たちのためなら自分も『会社を続けるぞ』と言えるなと思います。この人たちが一緒に続けてくれるなら、経営者としての責任を果たさなきゃなってます」。



クイズ形式で漁具の説明をするなど、会社見学は子どもたちにも人気。



一誠さんは前職の広告代理店の経験を生かして、親しみやすい会社PRにも力を入れている。

「あがらいん伊達屋」店長・丸森町復興支援員 寺澤美亜さん

地域の交流拠点発。 安全でおいしい農産物を

台風19号の被災経験から、町の復興支援員へ

福島県と県境を接する丸森町では、震災後、東京電力福島第一原子力発電所事故への対応や、町の生産物に対する風評被害が課題となっていました。町では、復興支援員の寺澤美亜さんを山間部の耕野地区にある農産物直売所「あがらいん伊達屋」の店長に任命し、正しい情報の発信や町の特産物を生かした商品開発、販売促進イベントの企画・開催など課題解決のための取組を進めています。

「あがらいん伊達屋」は元々、前代表の故・谷津とき子さんが2001年に実家の雑貨店を改装して始めたお店。当初は、地域の生産者が朝に収穫した新鮮な野菜や果物、農産加工品などを出荷して販売する場でした。それが、やがて

生産者同士、あるいは生産者と利用者が情報交換を行う地域の交流拠点としても発展していました。

茨城県で生まれ育った寺澤さんが、夫のふるさとである丸森町耕野地区に移住したのは、震災から3年後の2014年、長男が生後3ヵ月（0歳）の頃でした。

「丸森まで来る途中で見た被災地の様子は非現実的に感じました。テレビで観ていた津波の映像ともつながりなくして」。そんな寺澤さんに転機が訪れます。2019年10月、台風19号の豪雨により町内では河川氾濫や土砂災害が発生。長男の保育園入園を機に町中心部に引越したばかりの寺澤さんは、夜中に腰まで水に浸かりながら子どもの手を引

いて避難する場所を探し歩きました。「それまで防災意識はゼロでした。幸い近所の介護施設の方に声をかけてもらって難を逃れました。息子は泥だらけになった自宅の中を見てから、しばらく家に入るのを嫌がりました。もうあんな経験はしたくない。いざという時、子どもをちゃんと守れるようになりたいと思いました」。

寺澤さんは、命の危険にさらされたことで東日本大震災に向き合い、町が抱える課題にも関心を抱くようになりました。復興支援員を引き受けたのは、自ら被災しながらも物心両面で手をさしのべてくれた地元の人たちに恩返しをしたいと思ったからです。

安全でおいしいものに 付加価値を添えて

「最初は、私もお店で買い物をする一利用者だったんです。私は、丸森のたけのこが大好き。えぐみが少なくあく抜きがいらぬので、たけのこ本来の風味が楽しめます」。

お店には、谷津さんの人柄に惹かれて地域の人たちが集まり、まるで家族や親戚のような温かいコミュニティが形成されていました。寺澤さんもその一員。「谷津さんから療養を理由にお店を閉めると

相談された時、このつながりを絶やしてはいけないと思い、引き継ぐことを決めました」。店長に就任した寺澤さんの最初の仕事は、新型コロナウイルス感染症への対応でした。対面での営業が制限されたことから、タケノコ水煮、ハチミツ、へそ大根など地元の農産物を詰め合わせた宅配便の取組を始めました。利用者のオーダーに細やかに応じた商品の組み合わせと手書きの手

紙を添えたことで「自分のふるさとから届くような感じ」が人気となり、首都圏や関西方面から注文が入ることもありました。

寺澤さんは、傷みややすい生のたけのこやいちじくが売れ残り、大きな食品ロスにつながっていることに着目。たけのこは新鮮なうちに水煮にして真空パックに、いちじくは甘露煮にして保存を可能とし、食品ロスの削減につなげ、今ではそれが人気商品となっています。

「子どもが二人になって、おいしいもの、体によいものを

食べさせたい、みなさんにも食べてほしいという気持ちがあります。高品質な食品に付加価値を添えてお届けしたいです。実は料理は得意じゃないんです。最初は生産者の方が持つてきてくれる野菜が何なのか、どうやって食べるのかもさっぱり分からなくて（笑）。皆さんに教わりながら一から勉強し、「こうして食べたらいかがですか」「こんな料理にも使えますよ」と言えるようになりました」。

宅配便でつながった利用者が県外から訪れてくれること

もあるそう。生産者も利用者もみな家族のように接してくれるのが嬉しいと語る寺澤さん。「もともと天気や作物の情報交換をしたりお茶飲み話をしたりするコミュニティの場として始まったお店です。谷津さんの遺志をついで、高齢化の進む地域の方々の方々をつなぐ拠点でありたい」と決意を新たにしています。



〈上〉みやぎ丸森産直便。「おいしかったと言われるのが何よりの励み。風評被害はゼロにはならないとしても、根強いファンがたくさんいてくれます」。〈下〉新鮮な農産物のほか、タケノコ水煮、イチジク甘露煮、耕野ハチミツ、へそ大根が人気。コンニャク芋から加工した手作りコンニャクは季節限定。福島県相馬の魚介類は月2回販売。



お茶飲み場があってくつろげる店内。工芸品や本も販売しています。◎宮城県伊具郡丸森町耕野字沼77-8 ☎9:00~13:00(繁忙期変更あり) ランチ毎週水曜日11:00~12:30 ㊿不定休。

SOSカードはこんな時に役立つ!

家族の安否確認

家族と離ればなれになった時、家族の容姿が写真でわかると伝えやすく、探しやすいです。写真の裏に基本情報も記載すればより手掛かりに。



自分の安否を知らせる

携帯電話が使えなくなった時に「災害用伝言ダイヤル(171)」が役立ちます。安否を確認したい人の電話番号が必要になるため、SOSカードに記載しておきましょう。



ケガをしたとき・救急搬送時

救急搬送時は生年月日や血液型を必ず確認されます。どんな時にも伝えられるよう、SOSカードに記載し携帯しておくことで安心です。



健康状態を確認するとき

医師や保健師に、現在かかっている病名・普段飲んでいる薬を的確に伝えられるよう、SOSカードに記載しておくことで命を守ることにつながります。



machico防災部員が“SOSカード”をつくってみた!

ポイントは3つ!

Point 1 写真の裏を活用

携帯電話が使えない時でも家族の特徴を「写真」で説明できるよう、印刷して持ち歩くと安心です。写真プリントの年賀状の裏を活用するのも◎。



奥村さん

SOSカードを見た人に伝わるよう、人ごとに項目を書きます。自分との関係性(「父」「母」など)を書いておき、写真側にも名前を記載するとよりわかりやすいですね。

Point 2 ケースに入れて防水

クリアケースに入れて水濡れ対策もしておくより安心です。クリアケースやラミネートは100円ショップでも購入できます。



奥村さん

ラミネート加工したりケースに入れたりすれば防水にもできます。お薬手帳や母子健康手帳の予防接種の記録のコピーなども一緒に入れておくと、いざという時に役立ちます。

Point 3 定期的に見直しを

容姿は変わっていくもの。定期的に見直しや記載内容の見直しを行いましょう。引っ越しや転職など環境の変化に合わせた更新も忘れずに。



奥村さん

被災地にいる人同士では連絡が取れず、遠方にいる人とは電話が繋がったということもあったので、遠方に住んでいる頼れる人の連絡先も書いておくといいですね。

完成!



奥村さんのアドバイス

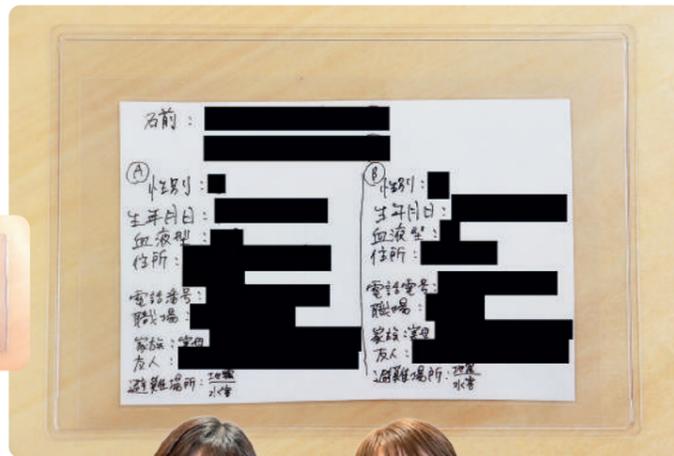
普段は携帯電話に頼りがちですが、いざ使えなくなった時を想定して必要な情報を別途持つことが大事。それが3.11の取材を通じた教訓の一つです。



【オモテ面】

つくってみた感想

書き始めると、家族の情報をあまり知らないことに気づきました。改めて、家族とお互いのことを共有する時間をつくりたいと思います。



【ウラ面】

※個人情報保護のため
墨消しにしています。



machico防災部といっしょ

今回のテーマ

SOSカードをつくろう



体験してみた人 /
machico防災部
てん ぶりばん



教えてくれた人 /
防災アナウンサー×環境省アンバサダー
奥村奈津美さん

「SOSカード」とは、防災グッズのひとつで、自分自身や家族の情報、連絡先などの必要な情報を記載したカード。混乱しがちな非常時の安否確認などにも役立ちます。今回は、東日本大震災当時、宮城のテレビ局でアナウンサーをされていた奥村奈津美さんが考案した「家族写真を用いたSOSカード」についてお話を伺い、作成してみました。

machico防災部(以下M)：「家族写真を用いたSOSカード」を考案したきっかけを教えてください。

奥村(以下奥)：東日本大震災当時、宮城のテレビ局でアナウンサーをしていて、緊急災害報道や被災地の取材を行う中で多く耳にしたのは「家族と連絡が取れない」という声でした。とっさに携帯電話を持たず避難した方や津波で濡れて使えなくなってしまう方などがいらっしやったほか、通信障害で携帯電話が使えない状況もありました。避難所の掲示板に、探している家族の名前を書いた紙を貼っている人も居ましたが、混乱する被災地では名前だけで家族を探すことは難しい状況でした。

M：確かに震災当時は携帯電話が繋がらなくなりました。私は家族の連絡先が携帯電話に保存したデータでしかわからないので、それを見ることができなくなれば、家族に連絡することすらできなくなります。

奥：震災時の取材の中で「写真があれば家族の特徴を伝え

やすいのに」という声も多く聞いたことから、「家族写真を用いたSOSカード」を考案しました。災害時などの非常時には情報が動転して普段覚えている情報でも思い出せなくなる場合があります。家族写真の裏に自分や家族の情報を書いて持ち歩くことで、災害時などの混乱した状況でも安否確認や捜索に役立ちます。

M：SOSカードには何を書くといいのでしょうか。

奥：自分と家族のそれぞれの名前、生年月日、性別、血液型、連絡先は基本情報として必須です。その他、かかりつけ医や普段飲んでいる薬、勤務先などのそれぞれに必要なと思われる情報を記載するといいですね。

M：家族でも知らないことがありますね。

奥：家族で話し合いながらSOSカードを作ることで、把握できていなかった家族の情報や災害時の対応について再確認することができます。SOSカードの作成を通して防災意識を高めるきっかけになればいいと思います。

WHAT'S

machico防災部とは

仙台・宮城の人とまちを元気にする地域コミュニティサイト「せんだいタウン情報machico」の編集部員が、防災・減災に役立つスキルを体験して発信する「部活動」です。

machicoからアーカイブが見られます!



切り取って使えます ✂

自分の情報			の情報			の情報		
氏名	性別	血液型	氏名	性別	血液型	氏名	性別	血液型
生年月日			生年月日			生年月日		
住所			住所			住所		
電話番号			電話番号			電話番号		
勤め先・学校名	名称		勤め先・学校名	名称		勤め先・学校名	名称	
住所			住所			住所		
電話番号			電話番号			電話番号		
避難場所	地震		避難場所	地震		避難場所	地震	
	水害			水害			水害	
その他			その他			その他		

※様式は一例です。その他の欄には、このほかにも必要と思う情報を記載しましょう。個人情報の取り扱いに気をつけましょう。

基本情報のほか記載しておきたい項目(例)

子どもの場合

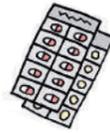
- 両親の連絡先
- よく遊ぶ子の保護者の連絡先(※)
- 習い事の住所、連絡先
- 好きなもの、好きなこと
- 予防接種履歴(母子健康手帳のコピーなど)



好きなものや好きなことは、食べ物やお菓子、キャラクターや遊びなど、SOSカードを見た人と子どものコミュニケーションをとるためのヒントになるものを記載しましょう。

高齢者の場合

- 普段飲んでいる薬、飲む頻度
- 現在かかっている病名や体の不調
- かかりつけ医(病院名、電話番号)
- 認知症の有無
- 不自由なこと(体の装着具、補聴器の装着など)



年齢やその方の健康状態によって共有したほうがいい情報は異なりますので、必要な項目を選びましょう。

アレルギーがある方の場合

- アレルギーの種類
- 食べられないもの、飲めないもの
- 普段飲んでいる薬、飲む頻度
- 発作が出た時の薬(飲み方)
- かかりつけ医(病院名、電話番号)



避難所では、アレルギー対応の食事が無い場合もあります。アレルギーがある方にとっては命に関わるので、注意が必要なものを明確に提示できるように記載しておきましょう。

そのほか大事なこと

- 複数人が映った写真を持つ場合は、写真側にもどの人が誰なのか名前を記載を
- 遠方に住む友人や知人の名前、連絡先も記載しておく(※)



SOSカードは見た人に伝わるようにまどめましょう。最近では友人のLINEやSNS以外の連絡先を知らない人もいます。携帯電話が使えなくなった場合を想定し、大切な人の電話番号は聞いておくと安心です。

障害のある方の場合

- どのような障害か
- 普段飲んでいる薬、飲む頻度
- 普段装着しているもの(補聴器など)
- 特別支援学校や働いている作業所の情報
- サポートを受けている福祉関係機関の情報



朝起きてから夜寝るまでに必要なことを思い浮かべ、サポートが必要な事項を細かく記載しましょう。災害時のみならず、迷子になった際など平時の対策にも。

詳しくはこちらもご覧ください!

防災アナウンサー 奥村奈津美

【今すぐできる】災害時子どもの命を守るSOSカード作成方法

<https://natsumiokumura.com/soscard/>



SOSカードの 使い方・作り方を知ろう

「SOSカード」とは、防災グッズのひとつで、自分自身や家族の情報、連絡先などの必要な情報を記載したカード。混乱しがちな非常時の安否確認などにも役立ちます。家族や大切な人と一緒に作成することで、災害時の対応について再確認・共有することができます。SOSカードを管理する際は、個人情報の取扱いに配慮しましょう。

※今回紹介するSOSカードは、東日本大震災当時、宮城のテレビ局でアナウンサーをされていた奥村奈津美さんが考案した「家族写真を用いたSOSカード」を参考としています。

こんな時に役立ちます

家族の安否確認



家族と離ればなれになった時、家族の容姿が写真でわかると伝えやすく、探しやすくなります。写真の裏に基本情報も記載すればより手掛かりに。

自分の安否を知らせる



携帯電話が使えなくなった時に「災害用伝言ダイヤル(171)」が役立ちます。安否を確認したい人の電話番号が必要になるため、SOSカードに記載しておきましょう。

ケガをしたとき・救急搬送時



救急搬送時は生年月日や血液型を必ず確認されます。どんな時にも伝えられるよう、SOSカードに記載し携帯しておくことで安心です。

健康状態を確認するとき



医師や保健師に、現在かかっている病名・普段飲んでいる薬を的確に伝えられるよう、SOSカードに記載しておくことで命を守ることにつながります。

SOSカードの例



【オモテ面】

【ウラ面】

- 基本情報として、自分と家族の①名前、②生年月日、③性別、④血液型、⑤連絡先を記載します。
- この他、かかりつけ医や普段飲んでいる薬、連絡先などのそれぞれに必要なと思われる情報を記載します。(詳しくは10ページの例をご覧ください。)
- 完成したSOSカードは、ラミネート加工やクリアケースに入れると防水もできます。クリアケースに入れる際にお薬手帳や母子健康手帳の予防接種の記録のコピーなどを入れておくと、詳細な説明が必要なきに役立ちます。

「携帯電話の充電が切れて連絡先がわからなくなってしまった」。「家族や大切な人を探したいが見つけれない」。実際に、東日本大震災ではそういった事態が各地で起こりました。自分と大切な人の命を守るために必要な情報を考えてみましょう。

さ て in 東松島 み て

東松島市は日本三大溪の一つ「嵯峨溪(さががけい)」や約3キロにわたって美しい砂浜が続く野蒜(のびる)海岸を擁する風光明媚なエリア。震災の記憶と復興、防災・減災について伝える施設を訪ねます。



地震によってゆがめられた線路。災害危険区域となった野蒜では2700世帯が高台に集団移転しました。

施設① キーワード □津波被害を知る □証言を聞く □避難を考える □復興を感じる

東松島市 震災復興伝承館



津波の威力で折れ曲がった駅名標。

JR仙石線旧野蒜駅プラットフォームで津波の威力を知る

東松島市震災復興伝承館がある野蒜地区は県内で甚大な被害を受けた地区の一つ。津波は高さ3・7メートルにまで達し東名運河を越えて、JR仙石線野蒜駅を襲いました。地域コミュニティの拠点でもあったこの駅舎は2016年、震災を語り継ぐ施設として生まれ変わりました。1階では復旧・復興の歩みをパネルで紹介。2階では映像も交えて震災以前の東松島の姿と被災の状況を解説しています。駅のプラットフォームに残された曲がった駅名標や線路が壮絶な地震と津波の威力を今も伝えていきます。



震災後、泥の中から見つかった駅の切符券売機。



震災がれきの処理方法「東松島方式」も紹介。



市に送られた千羽鶴をアートとして展示。一つ一つのレジン作品には、折り紙の鶴と一緒に全国から寄せられた善意もとじこめられているようです。

問 東松島市の震災がれき処理は「東松島方式」と呼ばれ、全国から注目されています。どんな特徴があるのでしょうか。

答

DATA ◎宮城県東松島市野蒜字北余景56-36 ☎0225-86-2985 🕒9:00~17:00 📍第3水曜日 入館料無料 🌐<https://www.city.higashimatsushima.miyagi.jp/shisei/shinsai-fukko/fukkokenenken/fukkodensyokan.html>



施設② キーワード □環境を知る □宿泊する □アートを見る □避難を考える □まちを感じる

未来学舎KIBOTCHA



プレイルームは全天候型。雨の日も雪の日も安全に遊べます。

問 語り部ルームで学べるロープ結びは、災害時のどんな場面で役立ちますか。

答



本結び、もやい結びなど、実践で役立つロープ結びを学べます。

「希望」「防災」「未来」そして「環境」をキーワードとした体験型施設

東日本大震災で津波被害に遭い閉校した旧野蒜小学校を改修し、2018年に誕生したのが「KIBOTCHA(キボッチャ)」。 「KIBOTCHA」は「希望」「防災」「未来(Future)」を組み合わせた造語です。 小さなお子様がアスレチック感覚で防災を学ぶことができるプレイルームや、宿泊施設やレストラン、大浴場も完備し、ご家族・個人・法人の様々なニーズに対応できる施設です。防災キャンプをはじめとするアクティビティや学びのプログラムも充実。防災士研修の実施会場になるなど、防災教育の拠点にもなっています。



宿泊室は2人部屋から8人部屋まで多彩。写真は松島基地(東松島市)を本拠地とする航空自衛隊ブルーインパルスをイメージした部屋。



漁業用バイを活用したお洒落な椅子。エクステリアは廃材を再利用したものが多く。



「横の木の風呂」はイヌマキの香りとぬくもりにあふれたお風呂です。

DATA ◎宮城県東松島市野蒜字亀岡80 ☎0225-25-7319 🕒10:00~17:00 📍毎週火曜日(祝日は営業) 🚗(2階利用) 大人330円・子ども220円、(浴場利用) 大人550円・子ども330円、(共通利用) 大人770円・子ども440円/レストラン利用は入館無料 🌐<https://kibotcha.com/>



宮城県 東松島市

きてみてマップ

東松島市には航空自衛隊松島基地があり、曲技飛行隊の「ブルーインパルス」が所属。時折、上空で練習風景が見られることもあり、ドライブにも散歩にも楽しいエリアです。



1 奥松島クラブハウス



「地域に明かりを灯す」がテーマの複合施設。地元の食材を使った飲食店、日本庭園、ブルーインパルスのギャラリーなどがあります。

DATA ◎宮城県東松島市野蒜字北余景15-1 ☎0225-98-8123 ●店舗により異なる ◎毎週月曜日(祝日の場合は翌日) 🌐https://omch.jp/

2 奥松島イートプラザ



奥松島の観光案内所としてイベントや飲食店の案内はもちろん、お土産や食事処、無料貸し出しの充電器なども備えた充実した施設です。周辺を探索するときに便利なレンタルサイクルもあります。

DATA ◎宮城県東松島市野蒜ヶ丘1-15-1 ☎0225-88-2611 ●9:00~17:00 ㊟なし 🌐https://www.okumatsushima.jp/

3 奥松島遊覧船



奥松島をじっくりと巡ることができる遊覧船です。自然が作ったダイナミックな奇岩・奇島を間近で見ることができます。一周60分の嵯峨溪(外海コース)と、荒天候時の代替えコースがあります。

DATA ◎宮城県東松島市宮戸字川原5-1 ☎0225-88-3997 ●遊覧船案内所の営業時間は8:30~17:00。運航時間は8:45~16:00(4~9月)/8:45~15:00(10~3月) ㊟年中無休(遊覧船は大人3名以上で運航) 🌐https://higashimatsushima-kanko.com/pleasure_boat/

ひとやすみスポット

施設③ キーワード □津波被害を知る □証言を聞く □復興を感じる □地場産品を買う □地場産品を食べる

宮戸地区復興多目的施設 あおみな



特産品である焼き海苔をはじめ、海苔加工品が豊富にそろいます。

「奥松島」の観光拠点。遊覧船に乗って秘境を巡ろう
野蒜地区と松ヶ島橋でつながる宮戸島。宮戸島の周辺は松島湾の奥にあるため、「奥松島」とも呼ばれています。あおみなは島の西側、松島湾の雄大なパノラマが望める大高森のそばにある観光案内所で、宮城オルレ奥松島コース(10キロのトレッキングコース)のスタート/フィニッシュ地点にもなっています。あおみな食堂や売店では海苔や味噌など地元の特産品を使ったメニューや商品が豊富。11月から春先までは「焼きかき小屋」で焼きたてのかきを楽しむこともできます。
嵯峨溪の絶景を満喫できる遊覧船の案内所もここにあり、地域の観光の拠点となっています。



様々な形の岩や島がみられる嵯峨溪。震災の津波で形が変わってしまったものもあり、船長さんが震災前の写真を見せながらガイドをしてくれます。



(上)トレッキングコースや景勝地を紹介する観光案内版。
(下)冬季は観光案内所で販売されるかきを焼いて食べることができます。

問
あおみなは東日本大震災の津波被害が島内で最も少なかった地区に位置しますが、被害が少なかったのはなぜでしょうか。

答
あおみなは東日本大震災の津波被害が島内で最も少なかった地区に位置しますが、被害が少なかったのはなぜでしょうか。

DATA ◎宮城県東松島市宮戸字川原5-1 ☎0225-88-3997 ●8:30~17:00 ㊟年中無休。食堂・焼きかき小屋の営業時間は事前に問い合わせること。★入館料無料



INFORMATION

3.11みやぎ語り部講話
みやぎ東日本大震災津波伝承館にて
毎週土曜日11:00~12:00、13:30~14:30に開催中
※講話者等、詳しくはQRコードのウェブサイトをご確認ください。※午前のみ開催の日がありますので、事前にQRコードのウェブサイトをご確認ください。
○入場無料 ○事前予約不要



LINE公式アカウントを開設しました!
「みやぎ東日本大震災津波伝承館」に関するお知らせや、震災伝承・復興イベント情報などをプッシュ型でお届けします。

お友だち登録
よろしくお願
いします!



SNS「いまを発信!復興みやぎ」



宮城の復興の「いま」をSNSでお伝えしています! 皆さまからの投稿もお待ちしております!



X (旧Twitter)



Instagram





vol.06

岩手・宮城内陸地震を きっかけに企画

2008年に岩手県内陸南部で発生したマグニチュード7・2の大地震「岩手・宮城内陸地震」。宮城県内では、内陸部の栗原市で最大震度6強を観測。多くの被害がもたらされました。宮城県はたびたび大きな地震に見舞われていますが、この地震をきっかけにして「地震が来るたびに倒れてしまうこけしにも何か役に立てることはないか」との想いから生みだされたのが、倒れると自動的にライトが点く『明かりこけし』です。

「こけしのしまぬき」の

明かりこけし

子どもの誕生記念、入学記念などの折に、ギフトとして贈られることがよくあったので、各家の玄関や居間には必ずと言っていいほど、こけしが飾ってありました。ただ、このあたりは地震が多い地域です。地震のたびに「こけしが倒れてしまう」という声も多かったのです。

倒れないこけしや飾り方を模索する中、鳥貫さんは傾きを感じて自動点灯するLEDセンサーライトの開発業者とたまたま知り合いました。

「この技術とこけしをうまく組み合わせることができないか」。これが『明かりこけし』誕生のきっかけになったといいます。こけしが倒れた時にパッと明かりが点くことをイメージして、胴体の底に穴を開けセンサーライトを入れてみようかと鳥貫さんは考えました。「初めは工人さんたちに賛成されませんでした。そもそも倒れる想定でこけしを作っていないですから。それに、こけしは中心点がしっかりとっていて震度4く

らいでは倒れないんです。以前、地震体験車で実験をしたら、震度4以上の揺れになった時にこけしが倒れ、明かりが点きました」。停電や倒壊の恐怖を感じる揺れの中でこけしが暗闇を照らしてくれる安心感。鳥貫さんはそれを東日本大震災で実際に体験しました。

自ら体験して実感 電池と明るさを改良

「震災の日は、明かりこけしに入れるLEDライトの検品作業をしていました」。鳥貫さんのお店には遠方から旅行で来たお客さんも多く、その方たちを避難場所へ誘導する時、足元を照らすのに明かりこけしが役立ちました。「実際に使ってみるといろいろな気づきもありました。一つは、点灯時間の問題。当時は単三電池2本で8時間くらいしか持たなかった。停電が長期化することを想定して、省エネ



「こけしのしまぬき」代表取締役社長の鳥貫 昭彦さん。仙台駅前のアーケード「マーブルロードおおまち」内に店を構え、こけし以外にも「玉虫塗」や「雄勝石」、「仙台筆筒」など、宮城の工芸品を多数扱う。

型に改良しました」。現行品は約50時間点灯が持続します。鳥貫さんが実際に試してみたところ新品の電池で7日間点灯し続けたそうです。「もう一つの改良点は明るさ。より明るく、遠くまで照らせるようにしました」。お孫さんが祖父母へのプレゼントとして購入することもあるそうで、「高齢者も使いやすいよう、電池を取り出しやすいくりにしています」。

宮城県の伝統工芸品であり、防災機能も備えた愛らしい人形は、いざという時の頼もしいインテリアとして、今後も進化を続けていきます。



明かりこけしは鳴子系、遠刈田系、弥治郎系、作並系の4種類あり。すべてこけし工人の手作り。

Baton

発行元

宮城県震災復興本部
(事務局:復興支援・伝承課)

〒980-8570

宮城県仙台市青葉区本町三丁目8番1号

TEL:022-211-2443

